

学校 教育 目標	「自分大すき 友だち大すき このまち大すき さくらの子」				
	○困難なことにもあきらめずに挑戦する子どもを育てます。(知) ○物事の善悪をきちんと判断し、辛抱と我慢のできる子どもを育てます。(徳) ○自分や人の命を大切にする子どもを育てます。(体) ○小さなことでも、社会に役立つための行動ができる子どもを育てます。(公) ○様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げる子どもを育てます。(開)				
学校 概要	創立 12 周年	学校長 池田 千晶	副校長 前山 健	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 4
	児童生徒数: 388 人	主な関係校: 下瀬谷中学校 南瀬谷中学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する力> <言語能力>	下瀬谷中学校 瀬谷第二小学 校 瀬谷さくら小学 校	主体的に地域とともに学ぶ子ども (具体的取り組み) ①地域防災拠点小中合同防災訓練 ②小中合同授業研究会 ③小中交流での合唱披露、職業体験、出張授業、部活体験、授業参観、基礎学習会

中期 取組 目標	○児童が自信をもって主体的に行動し、安心して生活できる学校を目指します。 ・楽しくてわかりやすい授業づくりを推進し、学力の向上を図ります。 ・一人一人が自己有用感をもち、楽しく学校生活を送れるよう、環境調整に努めます。 ・健康な心身をつくるための生活習慣の形成を推進します。 ・他者を思いやり、協力することの喜びを感じられる心を育てます。 ・まちの方々とのふれあいを通して、まちを愛する心を育てます。
----------------	---

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①既習内容の定着を図ることをめあてに、検定の内容を変更する。現行の制度を継続しながら、児童が意欲的に漢字と計算を学べるようにする。②重点研では、本校児童の実態をふまえ、どの子も学べる環境をつくっていくために特別支援教育の研究を進めていく。
担当 C部会・重点推進委	
豊かな心	①挨拶やふわふわ言葉、異学年交流を児童主体で広げていけるように児童会活動の充実を図る。②地域の方との交流を深めるために、生活科や「横浜の時間」等で出会った人や学習材をリスト化し、全職員でよさや特色を共有していく。
担当 B部会	
健やかな体	①複合運動である「なわとび」に引き続き取り組む。短期集中・技の紹介・表彰等の工夫をし、児童が継続して楽しみながら体力を向上できるようにしていく。②家庭と連携した歯科保健教育を実施し、保護者にも虫歯予防の大切さを伝える。
担当 体育部	
児童生徒指導	①毎月の児童情報の共有を継続する。また、問題の未然防止のために定期的に児童理解研修を行い、指導力の向上を図る。②ブロック研や主任会で情報交換を密にし、「居場所づくり」と「絆づくり」の取組を引き続き行う。
担当 B部会	
特別支援教育	①誰もが安心して学ぶことができる特別支援教室「さくらルーム」、国際教室「さくらんぼ」の環境整備を進める。教室環境や授業方法などのユニバーサルデザイン化など、一般級における特別支援教育の充実を図る。②個別の支援計画についての研修を行う。
担当 B部会・さくらTPJ	
地域連携・ 学校運営協議会	①学校運営協議会と連携し、児童の育成につながる教育活動を実践する。②保護者・地域と連携し、持続可能な登下校見守りの体制づくりを進める。
担当 教務部	
ICTの活用	①児童が学びを実感できる学習方法の一つとして、ICT機器を積極的に活用していく。②学校からの情報発信に関する体制を組織として確立していく。③個人情報保護を徹底し、情報モラル教育の推進を図る。
担当 D部会	
a15	c8
担当	
いじめへの対応	①いじめ防止対策委員会を中心として、いじめについての職員の共通認識を図り、全職員の感度を上げる。②年2回のいじめ防止研修を実施する。③認知されたいじめ案件の経過確認を組織的に行い、解消へ向けた取組を進める。
担当 いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営 (働き方改革)	①メンターチームでは校内のミドルリーダーを講師に迎えたり、ハマアップを利用したりして、学級経営のポイントを学び続ける。②主任会や4部会を通して学校運営を全職員で進めるとともにミドルリーダーを育成する。③ICTの活用や、コミュニケーションの活性化を図り、より働きやすい職場づくりを進める
担当 教務部・メンターチーム	